


ふりがな 氏名	あらみや わたる	都道府県	奈良県	
	新宮 済			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市立平城小学校 / 教諭 ・近畿ESDコンソーシアム（ESDマスター認証プログラム・連続セミナー・連続公開講座受講生） 			
私のESD活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を舞台に学び、他地域へとつなげるESDの発信 ・持続可能な山・川をつくる授業づくりの発信 			

活動の概要

1、陸前高田市文化遺産調査成果の教材化

「文化遺産がほとんど海へ流された町に希望を」という依頼を受けて始まった奈良教育大学の陸前高田市浄膳寺の文化財調査に参加しました。発見された墨書から「陸前高田市と小笠原諸島との結びつき」が明らかになりました。この成果を教材化し教育委員会や地元の方に送りました。子どもが地域の歴史を誇りに思い、地域を大切にする心を育て、持続可能で住み続けたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持ちを育てることに寄与できるように近畿ESDコンソーシアム実践報告会で発表しました。

2、持続可能な海・山・川をつくる授業づくり

近畿ESDコンソーシアムと地域の博物館「森と水の源流館」と平城小学校で3年連続して共同授業研究をしています。

・1年目は、森と水の源流館が販売する間伐材の割り箸を教材化し、林業を守り源流に美しい水を流し続けることが、林業、農業、県外の漁業の振興につながることを気付かせる学びを作りました。

（近畿ESD実践報告会、きんき環境館ESDフォーラム発表）

・2年目は、地域の課題である土砂災害を防ぐために林野庁が進める「木づかい運動」を教材化して奈良県の事例を学んだ後に、ESD日本ユース達から地元の「木づかい運動」を紹介してもらい、それに感化された子どもたちが「平城っ子の木づかい運動」を立ち上げる行動化の学びを作りました。（きんき環境館ESDフォーラム発表予定）

○研究報告「陸前高田市文化遺産調査におけるESDの教材開発」 <http://ci.nii.ac.jp/naid/120005230004/en/>

○近畿ESDコンソーシアムESD理論研究会 https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/?page_id=30

今後の活動や協働への展望

地域の博物館「万葉文化館」や「森と水の源流館」と連携したESD教材開発を行い、地域の歴史・環境から地域を大切にする心を養い、持続可能で住み続けたい地域社会づくりの担い手になりたいという気持ちを育てたいと考えています。そのためには「人・もの・こと」に出会う深い学びが大切です。私は以前埋蔵文化財の仕事をしていたので、博物館の方々の文化財を守り後世へ伝えようとする考え方やESDの考え方は共通することに気がきました。また、学校も博物館も協働したいと思っていながらも、これまでは様々な制約がありました。そこで両者の立場を経験した自分の強みを活かして、博物館と学校をつなげ協働授業研究し実践することに挑戦します。その実践を大学や研究機関などで発表することで、博物館との協働に興味を持った教師と博物館をつなぐ役割を担いたいと考えています。地域の博物館と連携するESDを進めていくためには、奈良の事例だけではなく全国の事例や実践者の見方・考え方を集めることが大切です。

ESD日本ユースとしての私は、教員と専門分野を持つユースが協働したESD授業開発をコーディネートする「ユース版学びのプラットフォーム」となりたいです。近畿ESDコンソーシアムの中澤静男教授は、専門機関と学校をつなぐ役割を果たすと共にESDの理論を深めています。私はその下で学びながら日本ESDユースとして協働し実践活動を深めていきたいと思えます。